（４）②様式第４号－２（報告書）

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。
※必ずＡ３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等コラボ研修プログラム支援事業報告書	実施機関名　：　愛媛大学教職大学院（アルムナイ） 連携機関名　：　愛媛県内市町（今治市、西条市、新居浜市、四国中央市）教育委員会
	テーマ：持続可能な社会の創り手を育てる教員の職能向上と組織開発 ～日本型学校教育の改革の視点と働き方～
	研修等名：NITS・教職大学院等コラボ研修　アルムナイネットワーク人材開発研修 ＜ GIGA スクール推進向けた取組 ＞
	開催日時：令和３年１１月１３日　１３時～１７時 開催場所：愛媛大学（愛媛県松山市文京町３番） 参加人数（総数）と参加者の属性：（３９人）学校管理職９人、行政職７人、教諭１８　人、大学教員５人

内容：

１　教育委員会との連携：事前ヒアリング（GIGA スクール推進及び教員研修の現状と課題、大学連携等）
２　事前研修：１０：００～１１：００
・講師、主催者、修了生運営スタッフにより、テーマの確認、研修内容、グループ協議の柱等について確認する。
・演習等の組み込み方に関する講師の意向、運営全般に関する協議、オンライン環境等の連絡・調整を行う。
３　研修会：１３：００～１７：００
　① 研修の流れ説明　（５分）：研修進行担当によるアンケート入力及び集計結果活用の説明
　② 講師紹介　　＜ 露口教授　　益川教授 ＞
　③ 講話１（３０分）露口健司　教授　　「データドリブン型リーダーシップ実践」
　④ グループディスカッション（３０分）：　アンケート入力➡回答、集計➡結果の提示➡協議
　　★協議の柱：学校現場における GIGA スクール推進の進捗状況、現状と課題、教員研修等
　⑤ 講話２（１５０分）益川弘如　教授　「協働的な学びと個別最適な学びの一体化」
　⑥ 質疑応答・参加者の研修効果　（１０分）：ICT 活用による学びの保障について、
　⑦ まとめ　※研修後のアンケート即時入力、明日からの実践目標の明確化
４　事後研修：１７：００～１８：００
・研修効果を確認し、今後の GIGA スクール推進の課題及び修了生を核とする研修会の在り方を検討した。

成果

・東予地域管理職を中心に、県内各地域から大学院修了生が参加し、地域間交流、職務間交流を通して、GIGA スクール推進の現状と課題を明確にするとともに、今後の具体的取組内容の理解を深めた。
・参加者は、「リーダーシップ実践」、「協働的な学びと個別最適な学びの一体化」の実現に向けて、管理職に求められる経営判断や組織開発の視点について、今後の方向性が示唆され、新たな知見を得ることができた。
・主幹教諭、研修主任等、未来のリーダーと管理職がディスカッションする場の設定により、GIGA スクール推進という共通目標で、異なる立場の意見交流が実現し、研究推進の在り方など、幅広い議論の場となった。
・研修効果測定からは、GIGA スクール推進の成果をどのように検証するかについて、児童生徒の学力調査結果の活用等、データドリブン型リーダーシップ実践につながる目標設定がなされていることが分かった。
・教育委員会の後援申請による教育行政職への研修喚起、事前ヒアリングによる教員研修の課題や研修ニーズの把握等、未来のリーダーの早期養成を含めた研修モデルや大学院との連携体制の構築につながった。

アイディアや工夫したこと： ※3～5 つ程度の箇条書きしてください。

・県内教員の地域間交流、職務間交流、世代間交流等、教職大学院修了生をファシリテーターとした学びのコミュニティを創出した。
・課題解決型研修として、GIGA スクール推進の現状と課題について、グーグルアンケートを活用してタイムリーに結果を可視化し、共有しながらグループディスカッションを行い、課題解決の方策を見出すよう運営した。
・教職大学院現職修了生のネットワーク強化を目指しつつ、人材開発に向けて、県内教員を巻き込む核とした。
・修了生スタッフによる事前・事後研修を実施し、講話を活かしたグループディスカッションやまとめをするための視点を明確にし、参加者相互の実践交流を活性化させた。

＜写真・図など＞　※会場の熱気や規模がわかる写真、参加者の表情がわかる写真（寄って撮影またはトリミング）を撮影してください。

1　教育委員会ヒアリング内容

・若手教員の増加、管理職の世代交代への対応として、早期養成研修の確保、課題解決型研修、非同期型オンライン研修の有効活用、管理職研修の在り方等、プログラム開発の視点が明確になった。

★独自の初任者研修、職務別研修を実施している市もあり、大学の行政支援事業の可能性を確認した。

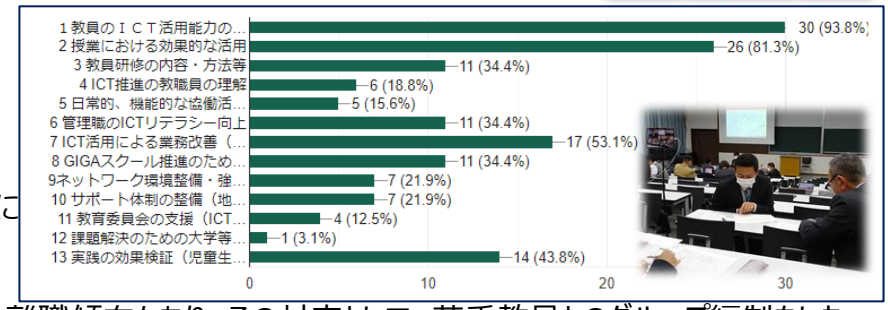
2　事前研修

・企画運営者から、研修会終日の日程説明を行い、事前研修及び事後研修の意義について共通理解を図る。そして、コラボ研修会の研修効果結果を基に、今後の修了生フォローアップ研修を活かした県内教員研修の開発につなげることを提案する。グーグルアンケート項目の確認や全体共有の方法を提示する。

3　研修会

・各校、各市町教育委員会における課題について、５項目まで選択・入力した集計結果を会場スクリーンに提示する。結果を共有しながら、参加者の学校及び教育委員会の課題について、地域間差や行政の役割と学校現場との連携の在り方等、具体的に協議する。講話１から、何をもって課題とするのか、課題を明確にするための取組課題や組織開発等について振り返り、講話２により教員の ICT 活用における考え方について理解を深め、目的化からの脱却を再確認する。

【協議内容の例】



・校内研修では、実際に機器を使い、活用の可能性を検証、担任学年による意識のズレを確認している。

・端末の持ち帰り等、政策決定の時間的余裕のなさがあり、教育委員会による意識の差もあるのではないか。

・校長先生が、「早く取り入れよう」とリーダーシップを発揮したが、年配教員の離職傾向もあり、その対応として、若手教員とのグループ編制をした。

・ストレスチェックが、WEB 調査になっていること、ロイロノートや teams 等、あり過ぎて、市教委の手厚いサポートもあるが、パニックになっている年配教員がいる。

・オンライン個人懇談を実施したが、時間通りに実施でき、参観日もオンライン配信し、保護者の受けもよかったし、業務の隙間時間ができ、業務改善につながった。

・器機環境の整備については、学校内のネット環境、家庭の経済的課題がある。

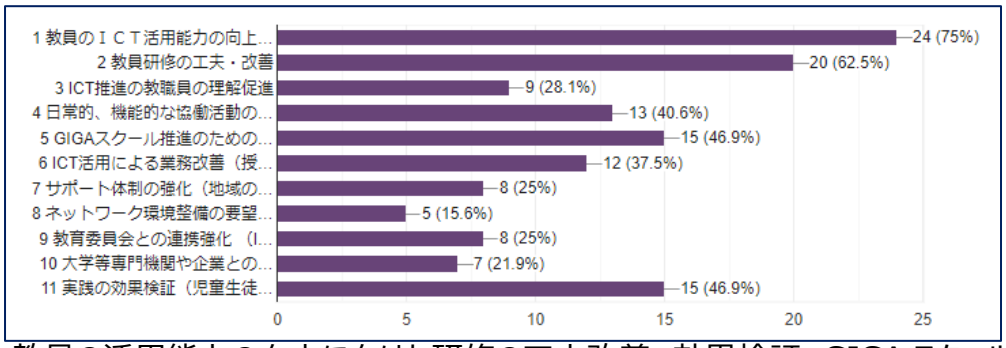
・客観的なデータで、教職員を評価していく必要があるのかと思った。

・データによる教職員の評価は、恐ろしくも感じるが、説明責任を果たすには必要だ。

・一人１台端末の活用が、どのように学力向上に結び付いているのか、どの様に測ればよいのかわからない。

・活用効果についても、得意な教員と苦手な教員による差がどう出るのか見分けにくさもあるが、使わない将来はないので、指導を工夫しながら、推進の必要性を感じる。

【まとめ】今後の取組課題に関するアンケート集気結果



・教員の活用能力の向上に向けた研修の工夫改善、効果検証、GIGA スクール推進の管理職の意識やビジョン、組織開発の必要性が、取組課題として顕著である。

4　事後研修

・GIGA スクール推進に向けた大学連携の促進（デジタル教材開発・資本獲得等）

・県内の教員研修を牽引する機会確保（地域間交流の活性化、「学びが続く」組織開発と研究実践交流）

・研修の在り方として、シンポジウム形式等、ハイブリッド型研修の継続（学びの保障、時間の有効活用）

・教職大学院修了生の参加者拡大とネットワークの可視化 ➡ フォローアップ事業の活性化